

# 夏季特別学習会報告



東京都港区立赤坂中学校北原延晃先生 講演より  
「これからの英語授業づくり  
～オールイングリッシュで進める授業の意義と実際～」

南筑後外国語（英語）科教育サークル  
会長 柳川市立三橋中学校 校長 境 宏文

日時：2015年8月8日（土） 13:30～16:00  
場所：柳川市立大和公民館  
講師：北原延晃先生（東京都港区赤坂中学校教諭）



**【8月8日（土）13:30～16:00 柳川市大和公民館にて】**

毎年恒例となりました、本サークルの夏季特別学習会。今回は、英語科授業づくりのカリスマ的存在でもある北原延晃先生をお迎えし、小・中・高校（遠くは沖縄県から参加）約90名の先生方に参加していただき、会場は先生方の英語に対する情熱であふれ、とても充実した学習会となりました。

はじめに、北原先生が今年の1学期に実践された、子どもたちによるスピーチや音読テスト、スキット発表などの最新映像を見せていただきました。参加者同士の交流を通して、自分の授業に何が不足していたのかを振り返ることができました。

次に、公開授業では滅多に拝見することができない「テスト前日の授業」の映像を見せていただきました。毎時間のルーティーンとなっているバラエティー豊富な帯学習やテストを意識させたアクティビティーには、勉強した子どもが得をするように仕組みられていることがはっきりと確認できました。生徒達も目的をもって主体的に、かつ生き生きと活動している様子が伺えました。

最後に、今年2月、北原先生最後の公開授業において、600名の参観者に向けたおくれた北原先生のメッセージをお聞きました。今回の特別学習会に参加された先生方は、そのメッセージの一言一言を心にしっかりと刻まれ、二学期からの授業改善への意欲をもたれたようでした。（文責 田中智美）

## ◆生徒の最新映像

- 1年生自己紹介スピーチ
- 2年生音読テスト
- 2年生スキット「対話をつなげよう」
- 3年生スピーキングテスト「Show & Tell 修学旅行の思い出」
- 3年生スキット「有名人にインタビューしよう」



- ・1年からジェスチャーと関連づけて音読やスピーチをするので、語順の指導が要らない。
- ・発音指導を意識して行う。なぜなら、本物の発音を聞いても別物に聞こえるから。大人になったらなかなか発音は直らない。
- ・先輩の映像だけでなく、原稿を見せてスピーチやスキットを作らせると効果的。
- ・音読テストの評価項目を明確に [ th, f, v, l, r の発音、 intonation、 vividness ]
- ・授業はパブリックなので、正確さが必要。教師自ら、語尾まではっきりと発音する。



## 参加者のアンケートから

今年度から、初任者として中学校で採用されたものです。新卒なので、何もキャリアがないまま現場に入ったので、もちろんこのような講演会に参加したのも初めてです。若い先生には新しい形の授業にチャレンジしてほしいとよく言われて困っていたところでした。今回の講演で刺激を受け、これまで見たことない、受けたことのない授業やアイデアを見せていただいて大変勉強になりました。  
(筑前町立中学校)

今日は新しいアクティビティーも教わり、沖縄から来た甲斐がありました。2年、3年生であれだけ「表現したい!」「英語を話したい!」という生徒を育てる授業づくりをしたいと思います。  
(沖縄県中学校)

授業での子どもの姿、特に、正確に発音しようとする姿、会話を続けようとする姿がすばらしいなと思いました。やはり、教師自身が明確なゴール像を持って段階的、計画的、意図的に育てているから、あれだけ生徒が伸びていくのだと思います。元気をたくさんいただいた一日になりました。  
(古賀市立中学校)



「英語の授業は英語でできる」「音を大切に生徒をのぼす」ことを教えていただきました。自分の授業を見返してみると、発音が曖昧なところを放って置いてしまっていたり、こちらの指示がうまく通らずに、つい日本語を使ってしまったりということが多々あったので、そういったところから改善していかなければならないと感じました。オールイングリッシュが普通の公立中学校でできること、スキットなどを通して生徒が生き生きと活動している姿など、たくさんのモデルを見せていただきました。とても素晴らしい目標ができました。  
(八女市立中学校)

あっという間でした。北原先生のユーモあふれる授業、生き生きと活動し、全身を使って表現する生徒の姿、そして笑顔がとても印象的でした。音声中心の授業で子どもたちは必ず分かるようになる、英語を話したいという子で教室がいっぱいになる。そのためには、私達の英語力の向上や教材研必修だし、何より熱を持って授業をすること、生徒と楽しむことが大切だなというのを感じました。子どもたちの可能性は無限大です。それを、こちらで「ここまで」「これしかできない」と見限るのではなく、あきらめずにやり続けていきたいと思えます。  
(八女市立中学校)

今日は、何より自分の英語力の未熟さをあらためて痛感しました。北原先生の生徒さん達の発音のよさ・・・自分は生徒の可能性を引き出せずにいる。中途半端に「GOOD!」とほめる甘やかしにも気付かされました。言語習得に柔らかな心をもつ子ども達。甘やかさず、「One more time!」「Try again!」が必要ですね。Nativeのような発音を目指して、まずは、自分の英語をブラッシュアップしなければ!と思えました。  
(柳川市立中学校)

今日は目からウロコのことばかりで驚いた。どの子もあんな風にできたら・・・と思います。私は小学校ですが、できる子、できない子、いろいろな子がいる中、みんな楽しそうにしていたのが印象的でした。発音もできたら嬉しいし、またやろうという気持ちになるのかなと思います。  
(みやま市立小学校)

小学校のうちに音声を大切にしておくことの意味を考えさせられました。もう一度自分自身の英語力を磨きたいと思えました。小学校での英語活動、外国語活動をどう進めていくか、学んでいきたいと思えます。  
(大牟田市立小学校)



北原先生の実践を実際に見たり、体験したりすることでこれからの授業へのやる気をいただきました。2学期は、パフォーマンステストの実践をしたいと思います。また、この機会ですつながった先生方との縁も大切にしていきたいと思えます。  
(佐賀県中学校)

音読は大切だと思い、日々の授業の中で音読テストも行っているのですが、読めるようになることを重視しすぎて、発音まで意識させていませんでした。音と文字を一致させること、ジェスチャーも入れ英語を言うことで、語順も頭に入る、書けるようになる。書かせることよりも、音声を中心として授業を仕組み、もっともっと生徒に声を出させようと思えます。そのため、今日学んだことを自分の授業に取り入れていきます。  
(筑前町立中学校)

内容としては、高度なものではなく、自分達にもやれるのでは?と思えるようなものでした。自分の考えや思いばかりだけではなく、どんなことをして、どうなったかなど、実践についての話をたくさん聞いたことがよかったと思えます。ベテラン、若手の両方に勉強になる内容だったと思えます。  
(前原市立中学校)

オールイングリッシュの授業で、自らの英語力も生徒の英語力もつけいるのだと実感できました。「即興力を付ける」「映像でモデルを残す」「教科書の使い方の工夫」が今日持ち帰る宿題となりました。2学期からも頑張ります。  
(大牟田市立中学校)

北原先生の講演を聴いて、自分の授業を改善するために、もっと勉強しようと思えました。オールイングリッシュの授業をしようという心はありますが、生徒に英語での指示が伝わっているのか不安に思い、日本語で補足してしまいます。少しずつ減らす努力をします。また、家庭学習と授業を関連させることにも努力していますが、まだまだ努力不足だなと感じています。ヒントをつかんでいきます。  
(福岡県立高等学校)



日常的に子どもたち目線で細やかに指導を考えられて実践されるからこそその成果であると感じました。裏を返せばここまで私自身ができていない反省にもなりました。理論やデータに関しても大切だと思います。次の授業をよりよくするために努力していきます。  
(久留米市立高等学校)

教師の専門性の必要性がよく分かりました。そのことによって、生徒が変わるといふ確かな手応えを感じました。正しい発音が聴き取りの力につながるということが印象に残りました。  
(義務教育課)